

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和2年10月29日

公表: 令和2年10月31日

事業所名 _____

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		一戸建ての利点を生かし、庭での遊びや家庭菜園も取り入れている。	危険を防ぐために今後も環境改善をしていく必要性あり。
	2 職員の配置数は適切である	○		見守りで死角がないように立ち位置を考えている。	配置によって見守りが弱いところもあり、職員同士の声掛けが必要だと思われる。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		利用者によっては階段(玄関)にスロープが必要だと思われる。現状必要なし。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月一回のミーティングを行い、現場の改善点を職員同士で討議している。	月一回のミーティングでは足りないので、必要に応じてミーティング等を行い、業務改善を進めていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		今回が初めての事業所評価になる。今後も掲載をし、意見を基に改善を進めていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		今回が初めての事業所評価になる。今後も掲載をし、意見を基に改善を進めていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			申し送りノートの活用や個人ファイルのアセスメントシートに必要に応じて記入する等、情報を職員同士が共有できる環境づくりを目指す。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		子ども達の発達状況を見極めながら楽しめる活動を考えていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		学習時間が設定されていても宿題が無い子はすぐに遊びに取り組みるので、宿題が無い子も学習に取り組みるようにしたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		まだまだ暫定的であり、活動内容によっては具体的な話し合いが不十分に感じる。タイムスケジュールを視える化し、必要に応じて打ち合わせをするよう改善していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		翌日に連絡事項として共有。支援終了送迎後、気になった点、気付いたことに対しては報告するようにしているが、勤務終了時間が過ぎていることもあり、次の日に持ち越すことも出てくると思われる。報告するツール等を用意し、スムーズな打ち合わせが出来る。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○		総則の基本内容・理解が不十分であるので確認していけるようにする。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		現状、担当者会議に呼ばれる機会がない。あれば、ふさわしい者を参加させるつもりである。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアが必要な子供の受け入れをしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	児童発達支援事業所との間では行っている。	今後も情報提供や相互理解に努め、横の繋がりを持っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		未だこのケースはないが、必要性が生じた場合実施する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナの影響があり、未だ実施していない。また学校内での生活以外少ないと思われる。今後、必要であれば実施を検討してつつもりである。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		まだまだ知識不足なので、今後職員の知識向上に努めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		事業は実施しているものの職員が向上していけるよう努めていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○		苦情があった際には職員間での情報共有に努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		
	35	個人情報に十分注意している		○		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナの影響で行事そのものを実施していない。希望に応じて感染症対策を徹底したうえで、見学・体験等を慎重に検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		周知がまだまだ出来ていない部分があるので、もう少し情報開示出来るよう努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月の避難訓練の際、リアリティを出すため、音源を用いたりしている。	防災センターや消防署に見学等、訓練では学べない知識や体験を出来るよう企画していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		今のところ食物アレルギーを持っている子がいない。今後必要であれば実施をする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			どんな些細なことでも記載をするよう、職員に周知し、事故を防げる環境づくりに努める。